

10月8日 ルカによる福音書 17章 1～10節

説教題：「からし種一粒の信仰から始まった」

この10月10日という、江刺教会の68周年の喜ばしい日を前にして、江刺教会に多くの葉書が届いています。これは創立記念の関係ではなく、9月号の信徒の友、日毎の祈りの個所に江刺教会の祈りが載ったために、全国の教会から「祈祷会でお祈りしました」「江刺教会の祈りが確かに聞き届けられますように」「共に頑張りましょう」と、手紙が送られてきたのです。私たちが掲げている祈りの課題は、「主を礼拝する輪が少しでも広がりますように」というもの、特に江刺教会に関係する多くの人々が、私たちの働きによって、そして神様の導きによって、教会へと導かれてほしいと、そしていつかは同じ信仰へと導かれてほしいという祈りを掲げているのです。その祈りが実現するように、と祈ってくれた方が、全国にこれだけいるということは、私たちにとってどれだけ心強いことでしょうか。

私たちは、遠く離れた土地の方々とも同じ神様の元で、イエス様を頭とした一つなる教会のもとで、共に教会生活を送っています。今日の聖書箇所では、そのように共に生きる人々と接するうえで大切なことが幾つも示されています。それは「私たちの言動で人々がイエス様のことを信じるようになるのだから、気を付けて行動しなさい」ということや、「何度罪を犯されても、相手が悔い改めればゆるしなさい」ということです。

イエス様の言葉に素直に従えない弟子たちに対して、「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう」とイエス様は言います。そんな不思議なことが、不可能を可能にする力が信仰にはあるのか、私たちはそんなことなどできない、私たちはまだまだ信仰薄い者なのか、とその言葉を聴いた弟子たちは困惑したことでしょう。そのような弟子たちに対して、今この時代を生きる私たちは暖かい言葉をかけることが出来るのです。エルサレムからも、ユダヤ地方からも何千キロも離れたこの土地に御言葉が根付いている、イエス様を主であると信じる群れがある、ということ。それは紛れもなく彼ら弟子たちに、イエス様の十字架と復活を目撃した弟子たちに「からし種一粒ほどの信仰」があったからであり、それがこの地においても伝えられ、この地において確かに芽吹いているからだ、と伝えることが出来ることでしょう。

イエス様の弟子たちの信仰が、遙か海を越えてこの日本に福音を伝えようとした人々の信仰が、そしてこの地において御言葉を宣べ伝えようと熱意をもって活動をした先達たちの信仰が、今ここに確かにあることを、私たちはすべての礼拝を通じて知ることが出来ます。そして、今私たちにも、「からし種一粒の信仰」があるからこそ、この江刺教会は68年の歴史を超えて、新しい一步を踏み出そうとしているのです。私たちに、その一粒の種を植えて下さった神様の御言葉に感謝をしながら、そしてその種を芽吹かせるイエス様の十字架と復活、祈りを届ける聖霊に感謝をしながら、私たちの新たな歩みを、一步踏み出していきましょう。

今日の説教箇所：ルカによる福音書 17 章 1～10 節

- ・1:イエスは弟子たちに言われた。「つまずきは避けられない。だが、それをもたらす者は不幸である。そのような者は、これらの小さい者の一人をつまずかせるよりも、首にひき白を懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がましである。あなたがたも気をつけなさい。もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦してやりなさい。一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回、『悔い改めます』と言ってあなたのところに来るなら、赦してやりなさい。」
- ・5:使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなかろうか。命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。」